広島から世界へ
～移住者の歴史と現在～

広島県立文書館　特別展示

平成27（2015）年　10月５日（月）
▼
12月26日（土）

広島県は，100年以上前から多くの海外移住者を輩出した全国第１位の移民県です。その数は，戦前戦後を通じ109,893人で，２位の沖縄県が89,424人，３位の熊本県が76,802人となっています（移住者数はJICA横浜海外移住資料館による）。

広島県から海外への本格的な移民は，1885（明治18）年のハワイ王国への第1回官約移民から始まり，これを皮切りに，移民の渡航先は，北米・中南米・オセアニア太平洋地域へと，次第に広がっていきました。

当初の移民は，高賃金の海外で一定期間働き，稼いだ金を故郷に持ち帰る（送金する），いわゆる出稼ぎ型の移民が主流で，多くは渡航先への定住を目的としていませんでした。しかし，一方，帰国せず定住者となることを選んだ人々もあり，また，後には，初めから定住を目指す移住も見られるようになります。その結果，遠く離れた国々で日本人コミュニティが形成されていき，やがて，相互扶助や親睦のため日本人会や同郷団体（いわゆる県人会）も設立されるようになっていきました。現在，ハワイや南北アメリカ大陸の日系人社会には，28の広島県人会が組織され，ルーツの地（故地）である広島県の人々との交流が行われています。

今回の展示は，1991（平成３）年に県立文書館が開催した「海外移住展」を再構成するとともに，広島県からの海外移住の歴史と現在について理解を深めていただくため，独立行政法人国際協力機構（JICA）の協力を得て，国や県の海外移住者・日系人関連事業を紹介します。

広島県立文書館（もんじょかん）

1　ハワイへの官約移民

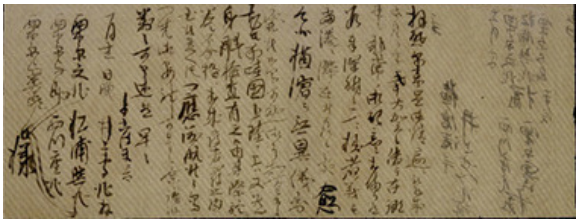
広島県からの本格的な移民は，1885（明治18）年のハワイへの移民に始まる。政府の取り扱いによるハワイへの移民（「官約移民」）は，「日布（にっぷ）渡航条約」（1886年批准）に基づき送出された。移民の募集は町村役場を通して行われたので，町村役場文書に関係資料が残されている。

移民は３年間，砂糖耕地で労働することになっていた。当初の賃金は，男子１か月食費を含め15ドル（15円）。大工の日給が20銭以下という当時の広島の賃金水準からみれば，かなり高額であったので，ハワイ移民の人気は高かった。官約移民の募集は，広島・山口・熊本・福岡の四県を中心に行われたが，なかでも広島県からの渡航者は，全国の３分の１以上を占めた。

官約移民は1894（明治27）年の第26回船で終わり，以後は移民会社のあっせんによることになったが，1900年，ハワイのアメリカへの合併に伴い，契約移民が禁止されたため，その後の移民は全て自由移民として渡航することになった。

ホノルルに上陸する日本人移民 1880年代
外航船が横着けできないので，一旦艀（はしけ）に乗り移り，桟橋に上がった。

長い橋を渡って移民収容所に向かう日本人移民　1893（明治26）年
ハワイ州立文書館蔵（左右とも）



拝啓　爾来益御清適ニ被相成
御座候由、奉大賀候、偖（さて）テ在郷
中ハ非常ノ御配意ニ相備リ候
段奉深謝候、二ニ拙者義モ
当港ニ滞在仕居候処、愈（いよいよ）
今日横浜ヲ無異儀（いぎなく）出（しゅつ）
発仕（はっつかまつり）候間可（しかるべく）然御了知（りょうち）可被下（くだされ）候（そうろう）
尤モ布哇（ふわい）国上陸ノ上ハ又（また）候（そうろう）
身体検査（けんさ）有之（これあり）候（そうろう）由（よし）、其際ニ於（おい）テ
若シ不合格ニ相成（あいなり）候得（そうらえば）者不得止（やむをえず）帰
国仕候ヘトモ一応渡航仕候間
一先御安神可被下候、余ハ後日
萬々可申述候、早々
よこはまニ而
一月十二日晩　井上専作拝
（宛名略）

井上専作書簡　　明治30年代前半
井上家文書（199011/544）
ハワイへ渡航する直前，横浜港から出した手紙。ハワイで身体検査がある旨を書いている。

第22回移民に対する広島県知事諭告
明治26年(1893)
ホノルル・ジャック田坂氏蔵

ペスト焼き払い事件　1900(明治33)年
ハワイ州立文書館蔵

ペスト患者の家を焼き払う火が燃え移り，ホノルル日本人町が大火事となった。

砂糖耕地のストライキ　1909(明治42)年
ホノルル・ジャック田坂氏蔵

演説しているのは，日布時事の田坂養吉記者。

このストライキは，3か月にわたり7000人の日本人が参加したが，敗北し，指導者が投獄された。しかし，ストライキ後，日本人労働者の月給が18ドルから22ドルに増額され，人種による賃金格差が撤廃された。

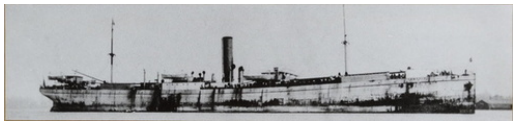
2 北米・南米・オセアニアへの移民

北米　アメリカへの移民は，1890年代から本格化し，1900年前後から，ハワイからの転航を含め急増する。アメリカでは，ハワイのような契約移民は禁じられており，病人・貧困者と見なされた者も入国できなかった。日本政府も旅券の発給を制限していたので，ハワイ経由，カナダ経由で入国する移民も多かった。なかには密航する者もいた。賃金水準の高さ（1日1ドル50セント）が，多くの日本人を惹きつけたのである。

日本人移民の急増に対し，アメリカでは日本人排斥の声が高まり，1908(明治41)年，日米紳士協約の締結により，アメリカへの移民は，再渡航者及び家族の呼び寄せに限られるようになり，1920(大正13)年，排日移民法の制定により，アメリカの市民権を持つ二世を除き，日本人移民の渡航は不可能となった。

タコマの製材所労働者　1900年代　岡田卓磨氏提供

白人労働者にまじって，日本人が働いていた。下の拡大写真の中央はこの写真の所蔵者の父親岡田伊三郎（1900年(明治33)に渡米）。

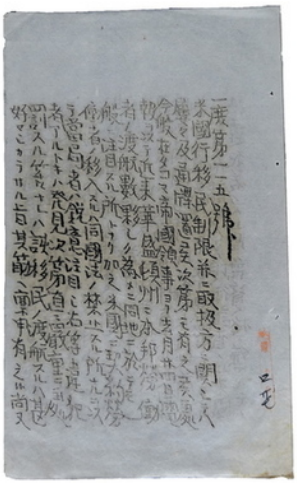


(上) バンクーバーに到着したキュメリック号
(下) 同船上の日本人移民　1907(明治40)年
外務省外交史料館蔵

この船は，ハワイからの転航者1177人が乗船していた。この年，ハワイからアメリカ本土への転航が禁止されたため，カナダに上陸する日本人が急増した。

バンクーバーで検挙された密航船　1913(大正2)年
外務省外交史料館蔵

船の全長約12メートル。カナダ・アメリカへの千金の夢を抱いて，このような小舟で，太平洋を横断した。9人の乗組員全員が検挙され，日本に送還された。



アメリカ行移民渡航制限に関する通牒
明治33(1900)年
芸北町役場文書（198911/2933）

移民問題がアメリカとの外交問題になることを恐れ，渡航を制限した。

南米・オセアニア　南米への移民は，当初はペルーに最も多く渡航していた。大部分は砂糖耕地の契約移民として渡航したが，耕地から離れ，リマに出て商業や理髪業に転ずる者も多かった。

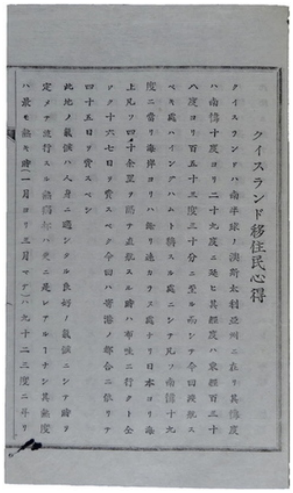
ブラジルへの移民は，1908（明治41）年から始まった。折から北米への移民が制限されるようになったため，日本人移民の主流はブラジルに向かうことになった。他の移住先と異なり，出稼ぎでなく，家族ぐるみの永住定着が奨励され，渡航費の補助が当初はサンパウロ州政府，後に日本政府から支給された。3年間コーヒー園での契約労働が義務づけられていたが，やがては土地を購入し，農園経営者となるのがブラジル移民の夢であった。

1891（明治24）年，日本で最初の移民会社，日本吉佐（よしさ）移民会社が設立され，移民会社による移民の募集が始まった。広島県からは，1892年にオーストラリアのクイーンズランド，1894年にフィジー及び西インド諸島のガードループ，1900年にニューカレドニアにそれぞれ最初の移民が渡航している。このうち，フィジーへの広島県移民は，108人中36人が病死するという悲惨な結果に終わった。また，ガードループへ渡った広島県移民187人中，現地で35人が死亡し，大部分が中途で帰国したため，契約満期帰国者はわずかに59人にすぎなかった。同社の広島県代理人土肥積の残した書類（平賀家文書）は，当時の状況を生々しく物語っている。

北米日本人会の労働者勧誘広告　1922（大正11）年
ワシントン大学蔵北米日本人会文書

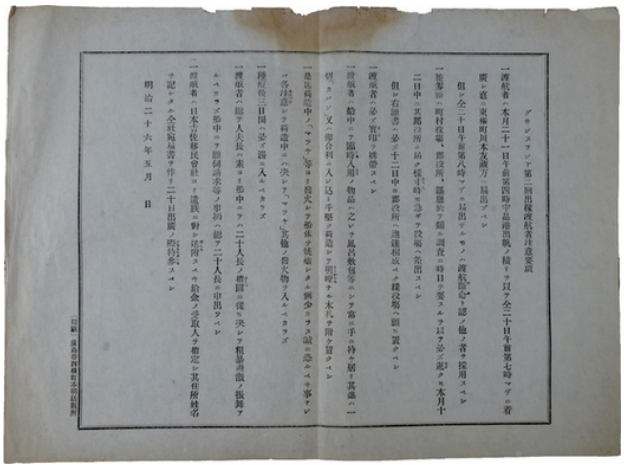
バンクーバーの日本人商店
バンクーバー・福井弥一氏蔵

店主の福井弥一は，日清戦争に従軍し，戦後シアトルに渡航。ついで日露戦争に応召，負傷帰還後，シアトルへ再渡航した。1907（明治40）年，バンクーバーへ移住し，食料品店を経営した。



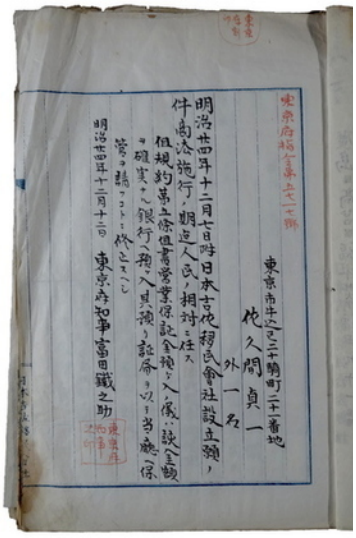
クインスランド移住民心得
1892（明治25）年
平賀家文書（198803/IM84）

豪州クイーンズランドへの移民募集に当たり，吉佐移民会社が応募者に示した心得。現地の状況などについて述べている。



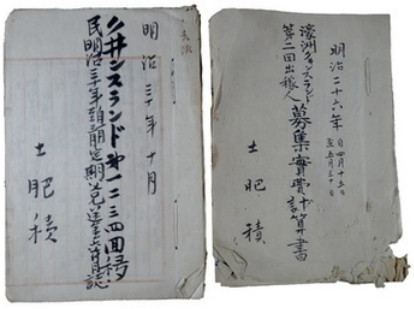
クインスランド第二回出稼渡航者注意事項　　明治26（1893）年
平賀家文書（198803/IM86）

クイーンズランドへの移民（出稼者）へ配付された注意事項。旅券の申請や，持参物，家族への送金などについて指示されている。



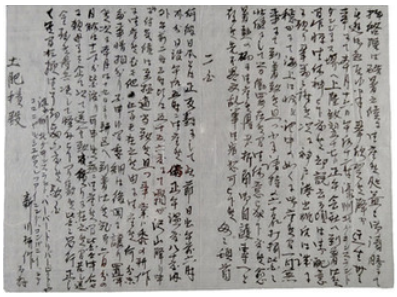
東京府知事指令（吉佐移民会社設立）
明治24（1891）年
平賀家文書（198803/IM86）

吉佐移民会社は，日本初の移民会社として東京で設立された。広島県では賀茂郡郷田村の土肥積を代理人として募集を行った。



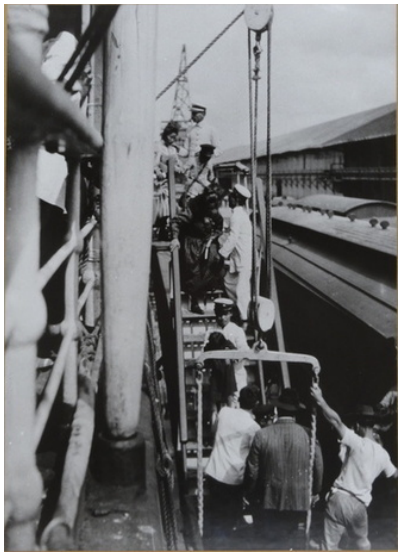
クイーンズランド移民関係書類
明治26，30（1893,1897）年
平賀家文書（198803/IM13,IM89）

吉佐移民会社代理人の土肥積が作成したクイーンズランド移民関係書類。土肥積は平賀家の出身で，その関係から土肥の残した移民関係資料が同家に伝存している。



オーストラリア移民監督者からの書簡
1893（明治26）年6月
平賀家文書（198803/IM97）

神戸から出航し，現地に無事到着したことを報告した手紙。この監督者の受持ちは60名であったことが記されている。



サントス港への上陸
1912（明治45）年外務省外交史料館蔵

上陸後，列車でサンパウロ移民収容所（下）に向かい，そこから各耕地に向けて出発した。

船内で開かれた植民学校（ポルトガル語の講習）　1917（大正６）年
国立国会図書館蔵

講習を受けているのは，ブラジル拓殖会社のイグアペ植民地に入植する人たち。

ペルーの日本人商店　大正頃
ペルー・白川喜美子氏提供

ブラジル移民の船中日記　昭和３（1928）年
広島市市民局文化スポーツ部文化振興課蔵

掲出部分は，移民船がサントスに到着する日の記述（左）。「来たのだ 来たのだ サントスへ あこがれの地への第一歩」と記している。

綿畑の小山一家　1935（昭和10）年
広島市市民局文化スポーツ部文化振興課蔵

ブラジルに渡って５年目，自営農となった最初の年の一家の記念写真。右端の馬上の青年が日記を残した小山軍一。

呼び寄せ移民の旅券　大正12（1923）年
ペルー・白川喜美子氏寄贈

ペルーへの契約移民は，1922年で廃止され，以後は呼び寄せなどによる渡航者のみとなった。旅券の文言には，「知人の呼寄ニ依リ南米秘露国ニ赴ク」と記されている。

小山軍一日記　昭和13（1938）年１月
広島市市民局文化スポーツ部文化振興課蔵

小山家は，ブラジルに渡って自営農となった。日記は，労働日誌的に毎日家族がどのような労働をしたか，簡潔に記している。

ペルーの日本人理髪店
広島市市民局文化スポーツ部文化振興課蔵

リマには理髪店が1924（大正13）年現在176軒あったが，このうち日本人の店が130軒を占めた。写真はトルヒーヨ市の日本人理髪店。

コーヒーの搬出　国立国会図書館蔵

海外邦字紙　　馬哇新聞（ハワイ マウイ島）　コロラド新聞（デンバー）　桜府日報（サクラメント）　広島県立文書館蔵

移民が増え、海外で日本人社会が形成されていくと、邦字紙が発行されるようになった。掲載記事はニュースというよりも読み物に近い。

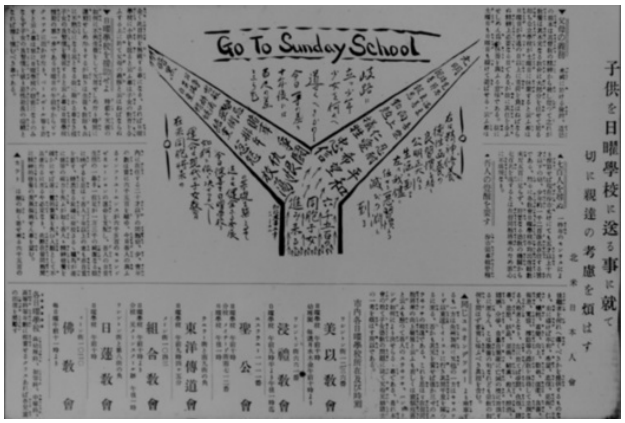
3 二世の成長，日本人社会の形成・郷土との交流

当初の移民は，出稼ぎ目的で渡航する男子が大部分であったが，妻を呼び寄せたり，結婚したりして，現地で家庭を営む者が次第に増加した。二世の成長は，現地に定着しようとする移民の支えとなった。日本人移民は，二世の教育にはことのほか熱心であった。

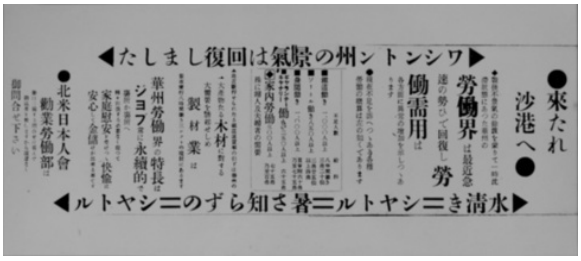
現地の日本人は，相互の交流と共通の利益擁護のため日本人会を結成した。また，同郷団体の組織化も盛んで，員数において多数を占める広島県人会は大きな勢力をなした。一方，広島県では在外の広島県人と交流を図るため広島県海外協会が結成され，その支部が移住先でも結成された。

宮島でのハワイ母国訪問団　　1912（明治45）年
ホノルル・ジャック田坂氏蔵

最初の母国観光団。シルクハットで正装した中央の人物が田坂養吉団長で，1909年のストライキでは，リーダーとして投獄された。広島県では英雄として迎えられた。



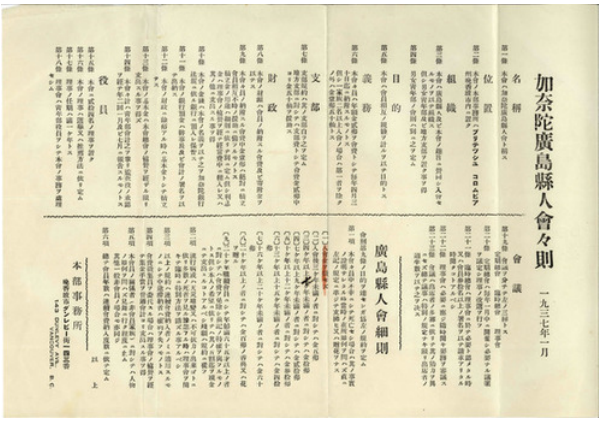
日曜学校の勧め　　1922（大正11）年
ワシントン大学蔵北米日本人会文書



北米日本人会案内　　ワシントン大学蔵北米日本人会文書

アメリカでは，各地に日本人会が結成されていた。北米日本人会はシアトル周辺の組織。

廿日市でのシアトル母国訪問団団長岩村次郎歓迎会　1914（大正３）年
シアトル・岩村勝蔵氏蔵

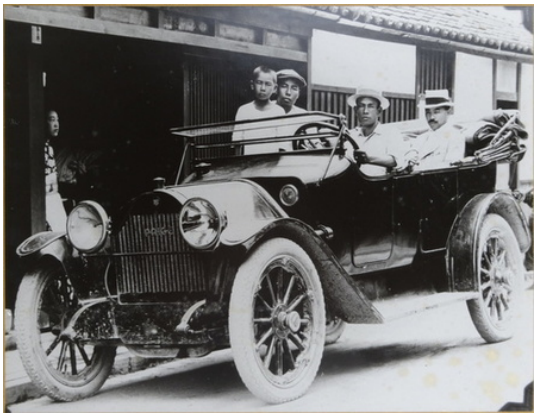


加奈陀広島県人会会則　1937（昭和12）年
バンクーバー・数田喜代三氏提供

カナダ広島県人会は，1907（明治40）年に結成されている。

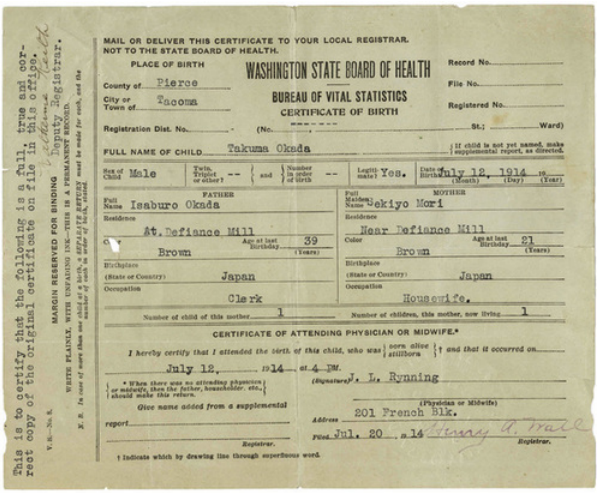
桑港広島男女青年会主催第２回中北加邦語懸賞雄弁大会　1940（昭和15）年
サンフランシスコ・中尾勝氏蔵

アメリカの２世のなかには，日本で教育を受ける者もいた。日本から戻った彼らは「帰米２世」といわれた。日本で教育を受けただけに，日本人としての意識が強かった。演題から見て，この雄弁大会には帰米２世の参加者が多かったと思われる。「桑港」はサンフランシスコのこと。



自動車を持ち帰ったアメリカからの帰国者
シアトル・藤井実氏蔵

右端の藤井長次郎は1894（明治27）年渡米，のちシアトルでホテルを経営，1933（昭和８）年に郷里の安佐郡安村に戻った。



MAIL OR DELIVER THIS CERTIFICATE TO YOUR LOCAL REGISTRAR. NOT TO THE STATE BOARD OF HEALTH.

WASHINGTON STATE BOARD OF HEALTH
BUREAU OF VITAL STATISTICS
CERTIFICATE OF BIRTH

PLACE OF BIRTH
County of Pierce
City or Town of Tacoma
Registration Dist. No. ____ (No. ____ St.; ____ Ward)
FULL NAME OF CHILD Takuma Okada
Sex of Child Male | Twin, Triplet or other? -- | and | Number in order of birth -- | Legitimate? Yes. | Date of Birth July 12, 1914 (Month) (Day) (Year)

FATHER
Full Name Isaburo Okada
Residence At Defiance Mill
Color Brown | Age at last Birthday 39 (Years)
Birthplace (State or Country) Japan
Occupation Clerk

MOTHER
Full Maiden Name Sekiyo Mori
Residence Near Defiance Mill
Color Brown | Age at last Birthday 21 (Years)
Birthplace (State or Country) Japan
Occupation Housewife.

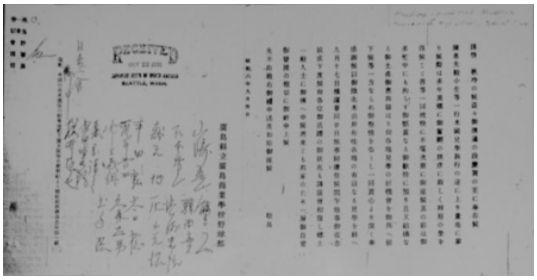
Number of child of this mother 1 — Number of children, this mother, now living 1

CERTIFICATE OF ATTENDING PHYSICIAN OR MIDWIFE.*
I hereby certify that I attended the birth of this child, who was born alive / stillborn † and that it occurred on July 12, 1914 at 4 P.M.
(Signature) J. L. Rynning (Physician or Midwife)
Address 201 French Blk.
Filed Jul. 20, 1914 Henry A. Trall Registrar.
* When there was no attending physician or midwife, then the father, householder, etc., should make this return.
Give name added from a supplemental report ____ Registrar.
† Indicate which by drawing line through superfluous word.

This is to certify that the following is a full, true and correct copy of the original certificate on file in this office.
Deputy Registrar.
MARGIN RESERVED FOR BINDING
WRITE PLAINLY, WITH UNFADING INK—THIS IS A PERMANENT RECORD.
In case of more than one child of a birth, a separate Certificate must be made for each, and the number in order of birth must be shown.
V. S.—No. 8.

出生証明書　1914（大正３）年　岡田卓磨氏提供

ワシントン州で日本出身者の間に生まれた子の出生証明。Takumaの名は出生地Tacomaにちなんだという。



（上）バンクーバー広陵青年会主催広島商業野球部一行歓迎会
1931（昭和６）年

この年，広島商業は選抜大会に優勝し，７月９日横浜出帆，９月17日帰国の日程で北米・ハワイに遠征した。

（下）広島商業野球部の北米日本人会あて礼状
1931（昭和６）年
ワシントン大学蔵北米日本人会文書

この時の部長は石本秀一。選手には鶴岡一人の名も見える。

南加広島県人会による大原広島県知事歓迎会　1956（昭和31）年　ロサンゼルス・八幡藤三氏提供
大原知事はブラジルとアメリカを訪問し，移住希望者の受け入れを依頼した。

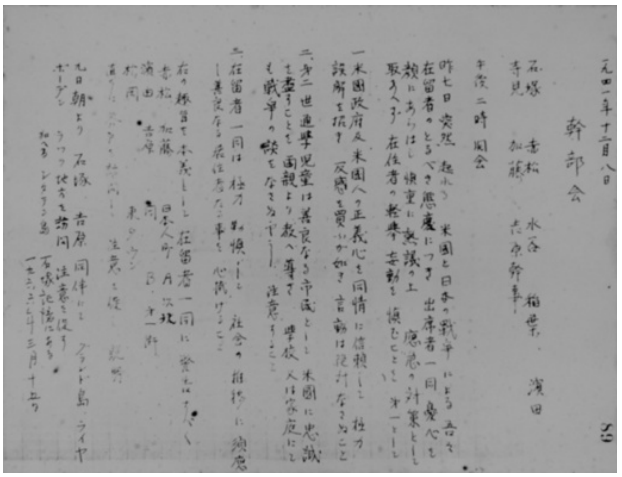
4 戦争と移民

祖国と移住先の国が友好関係にあることは，移民が平穏に暮らしていく上で欠かせないものであるが，「満州事変」以後の在外日本人は，これとは全く逆の立場に立たされることになった。こうした状況下にあっても，在外日本人の多くは慰問袋や国防献金を発送し，戦争の節目には戦勝祝賀会を催すなど，戦争を始めた日本への支援を惜しまなかった。

太平洋戦争の勃発は，日本人移民にとって最悪の事態となった。ほとんどの移住先で，敵性国民として扱われ，アメリカやカナダでは転住を強制され，これまで営々として築いてきた基盤を一挙に失うことになった。在米二世の中には，アメリカへの忠誠から兵役に応ずる者も少なくなかった。

桜府日報　昭和15（1940）年新年号付録
広島県立文書館蔵

日中戦争が長期化しつつあった昭和15年は日米開戦の前年である。カリフォルニア州サクラメントで在米日本人向けに発行された桜府日報は，当然のように紀元（いわゆる神武紀元）2600年を祝い，年頭の辞で「今や第二の昭和維新として，東亜新秩序の建設を目指」と述べるなど，日本国内の新聞と変わるところがなかった（サクラメントは「桜府」または「桜面都」と表記された）。



日米開戦当日の河下日本人会議事録　1941（昭和16）年
UCLA・JARPコレクション

河下日本人会は，カリフォルニア州ウォルナット・グローブ周辺の組織。
「在住者の軽挙妄動を慎むことを第一として」と記されている。

スローカン収容所に到着したカナダ日系人　1945（昭和20）年
カナダ国立文書館蔵

アメリカでもカナダでも太平洋沿岸の日系人は，キャンプ（収容所）に収容されることになった。

442歩兵連隊の出陣式　1943（昭和18）年　ハワイ州立文書館蔵

日系人志願兵2600人が参加し，ホノルルのイオラニ宮殿で出陣式が行われた。2世はアメリカの市民権を持ち，アメリカへの忠誠を誓って，参戦する者も多かった。442部隊はヨーロッパ戦線で勇敢に戦い，受けた勲章と部隊感状の数において，全米一であったといわれる。

カナダのタシメ収容所に届いた日本よりの慰問品
1944（昭和19）年
ブリティッシュ・コロンビア大学蔵

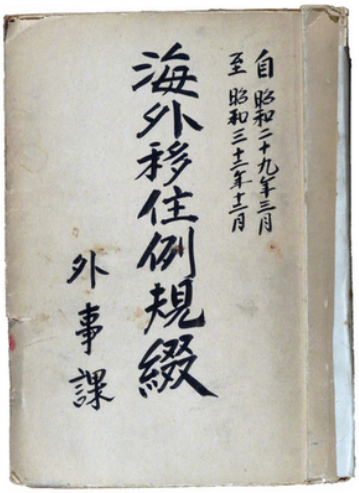
収容所では，日本料理に欠かせない醤油・味噌などが重宝がられた。

カリフォルニア州マンザナ収容所　ロサンゼルス・斉藤正奇氏提供
日系人の収容所はいずれもこのような人里離れた土地に置かれた。

5 第二次大戦後の移住

太平洋戦争の勃発以来途絶えていた海外移住は，1952（昭和27）年からブラジルを相手国として再開された。広島県からは翌年に54人が渡航し，その後移住が本格化した。1956年には沼隈町からパラグアイへ集団移住が行われた。この試みは全国的にも注目されたが，一時，移住者が困難を極め，救済を求める嘆願書を送付するという一幕もあった。戦後の移住が開始されてまもなく，日本は高度成長期を迎え，1960年代には移住者は激減する。

一方，在外の日系人は，敗戦で疲弊した日本の復興に援助を惜しまなかった。そして，高度成長期を迎え，内外の交流は新しい段階を迎えた。



海外移住例規綴
昭和29～32（1954～57）年
広島県行政文書
（S01/90/527）

広島県の移住行政を進めていくなかで作成された公文書。

（上）ブラジル・トレスバラス移住地の綿畑
1951（昭和26）年　日本力行会蔵

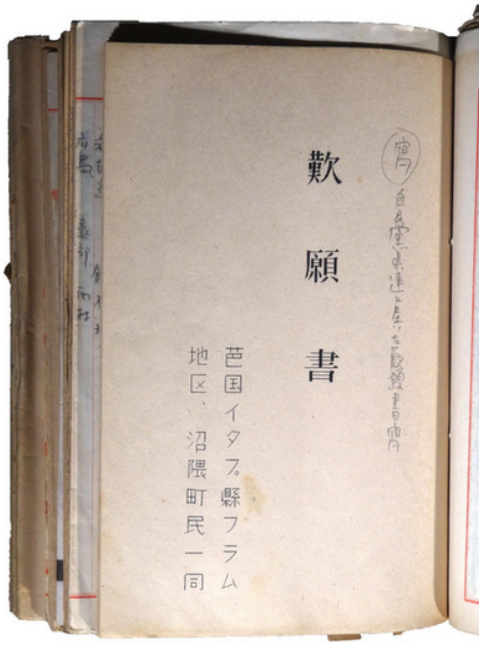
（下）アリアンサ移住地の綿畑への薬剤散布
1952（昭和27）年　日本力行会蔵

（上）神戸港を出発する沼隈町のパラグアイ移住者
1956（昭和31）年頃　沼隈町蔵

（下）入植直後のパラグアイ移住者　1955（昭和30）年
国立国会図書館蔵

海外移住推進のために作成された各種資料　昭和40～42（1965～67）年
広島県行政文書（S01/96/231，S01/98/594所収）

皇太子夫妻（当時）を歓迎するシアトルの日系人
1960（昭和35）年　　シアトル・植田政人氏蔵



フラム関係綴　　昭和32～34（1957～59）年
広島県行政文書（S01/90/645）

沼隈町からパラグアイのフラム地区への集団移住に関する文書。移住者が広島県に援助を求めた嘆願書や，県の対応策に係る文書等が綴られている。

6 広島県と在外広島県人会とのつながり

（1）在外広島県人会の現況

現在，移住者とその子孫を中心にハワイ，北米及び中南米の９か国に28の在外広島県人会が組織されています。

在外広島県人会の人々には，苦労されながらも地域で確固たる地位を築かれた貴重な人材が多く，また，ふるさと広島に対する変わらぬ思いを持ち続けており，本県との友好の掛け橋としての役割を担っておられます。

広島県では，在外広島県人会を，本県の海外における重要なネットワークとして位置づけ，在外広島県人会が主催する記念行事への訪問団の派遣や県人会の子弟の広島への招へいなど，さまざまな交流事業を実施してまいりました。

一方，2014（平成26）年８月20日に広島土砂災害が発生した際には，ハワイ広島募金委員会，南加広島県人会及びブラジル広島県人会から，多額の義援金が寄せられました。

（2）広島県の事業の紹介

① 在外広島県人会の後継者育成支援（青少年の招へい）

在外広島県人会の次世代の担い手を育成し，同県人会の基盤の維持・強化を図るため，県人会の青少年を広島へ招き，文化体験や交流事業を通じ，広島の理解促進を図るプログラムを実施しています。

2015（平成27）年度は，ハワイと中南米の10県人会から青少年10人と引率者６名が来広し，７月29日から８月７日まで滞在して，平和記念式典への参列，大学や企業見学，県内の高校生との交流，ホームステイなどを体験し，自身のルーツとしての広島に対する理解を深めました。

宮島訪問

県内高校生との交流

このようなプログラムにより，1996（平成８）年度から2015（平成27）年度までの間に534名の青少年及び引率者が広島を訪れています。

② 県費留学生受入（1962～2006年度）・技術研修員受入（1972～2008年度）

現地日系人の社会的地位の向上と日系社会の発展や国際的友好関係の増進に貢献する人材育成を図るため，県人会の子弟を県内の大学，企業，研究機関等へ留学生や技術研修員として受け入れました。

1962（昭和37）年度から2008（平成20）年度の間に，ブラジル，ペルー，アルゼンチン，パラグアイ，ボリビア，メキシコ及びドミニカ共和国から，延べ89人が留学生として，また，延べ131人が技術研修員として県内で学びました。

修了式

（3）ホノルル広島県人会創立60周年記念訪問（2015年５月）

ホノルル広島県人会は，2015（平成27）年に，創立60周年を迎えました。

本年５月30日に行われたホノルル広島県人会創立60周年記念式典には，湯﨑広島県知事が広島県議会団とともに参加して，創立60周年を祝い，県人会のこれまでの活動に対して感謝の意を伝えるとともに，県人会に対する功績が顕著である会員の表彰を行う等，今後の県人会の発展と本県との交流促進に向けて，人的交流を深めました。

式典には，デービッド・イゲ ハワイ州知事も出席し，これまでの広島県と同県人会との交流を高く評価するとして，「ホノルル広島県人会60周年記念の日」を宣言し，宣言文をウェイン・ミヤオ会長に授与されました。

式典会場の風景

広島県から記念品の贈呈

広島県から功労者表彰

過去の青少年招へい事業参加者との記念写真

また，ホノルル広島県人会からは，同県人会への貢献に対して，湯﨑広島県知事，林前県議会議長及び株式会社オタフクソースが表彰されました。

ワヒアワ・ワイアルア広島県人会，東ハワイ広島県人会，コナ広島県人会からも会長と会員が出席されました。

（4）南米広島県人会訪問（2015年10月）

2015（平成27）年は，ペルー広島県人会及びブラジル広島県人会の創立60周年，在パラグアイ広島県人会の創立55周年に当たります。

広島県では，湯﨑知事がペルー広島県人会創立60周年記念式典（10月23日），ブラジル広島県人会創立60周年記念式典（10月25日）及び在パラグアイ広島県人会創立55周年記念式典（10月27日）に出席するほか，在アルゼンチン広島県人会との交流会（10月28日）に参加し，高齢者及び功労者の表彰等を行います。

ペルー広島県人会
毎年８月に，広島原爆投下関係のポスター展示を行っています。
2015年８月

ブラジル広島文化センター外観（2003年竣工）
県人会の活動や日本文化の紹介などの催しが行われています。

在パラグアイ広島県人会
入植記念碑の清掃活動後の記念写真
2013年

在アルゼンチン広島県人会
日本祭りに在亜広島県人会の屋台　2012年10月

7 世界が舞台 広島と国際協力

(1) JICA日系研修員として母県へ

現代の若者たちも，広島から国際協力の現場へ，海外の県人子弟も，各地から研修のため来日するなど，新しい世代の活動は世界に広がっています。

「ひろしま国際プラザ」は，広島県東広島市に 1997（平成９）年に建設された「広島県立広島国際協力センター」と「独立行政法人国際協力機構（JICA）中国国際センター」が一体化した複合施設で，中国・四国地方の国際協力，国際貢献の拠点施設です。

2014（平成26）年５月～７月の２ヵ月，JICAの日系研修員として，ブラジルから，県出身２世の小笠原由香タニアさんが来日。日本から帰国したブラジル人子弟の援助をしている小笠原さんは，ひろしま国際プラザで「日系コミュニティー保持および日本文化継承者育成支援」をテーマに研修を受けました。日本のブラジル人コミュニティーについて，少数が暮らす地域として安芸高田市，集住する地域として愛知県豊田市を比較，職場環境や，自治体の援助，支援団体の活動などについて分析。呉市で日系ブラジル人と日本人の親子がふれあうプロジェクトワークを実施しました。

研修旅行で，神戸市のたかとりコミュニティーセンターを訪れた小笠原さん（左）。ひょうごラテンコミュニティ代表の大城ロクサナさん（ペルー）に，災害時のコミュニティーへの支援について話を聞いた。2014年６月

(2) 横浜市の幼稚園で

2014年８月から12月まで，ブラジルの広島県人子弟，オオクボ・エリカ・テルミさんは，JICA日系研修員として，「日系社会の幼児教育」について，神奈川県内の幼稚園などで研修を受けました。

日本人の園児を相手にジェスチャーで話しかけるオオクボさん

園児にハサミを使った工作を指導する

(3) JICA日系社会ボランティアで広島から南米へ

JICAでは，南米の日系団体などで，２年間ボランティア活動をする「日系社会青年ボランティア」「日系社会シニアボランティア」を派遣しています。広島県からも大勢の青年・シニアが広大な南米大陸で，日本語教育や，介護福祉等様々な分野で活躍しています。

(4) ボリビアで保健師として活動 東広島市の岡本洋子さん

東広島市在住の岡本洋子さんは，JICA日系社会シニアボランティアに参加。2010（平成22）年６月から2012（平成24）年６月までの２年間，南米，ボリビアのオキナワ移住地で保健師として活動しました。

お年寄りたちに物忘れと痴呆の違いを説明。（オキナワ日ボ協会講堂） 2012年２月

月２回のデイサービスで毎回実施する健康体操。（オキナワ移住地第二地域体育館） 2011年９月

デイサービスでタオルを使った体操を指導。平均年齢84.2歳　2012年２月

(5) 介護福祉士としてブラジルへ 広島市の上瀬智子さん

上瀬智子さんは2012（平成24）年７月から2014（平成26）年７月まで，日系社会シニアボランティアに参加。介護福祉士としてブラジル，サンパウロ州スザノ市の老人ホームに派遣されました。２年間の活動を通じて，認知症についての考え方や，介護技術の普及を，日常の活動や勉強会を通じて現地に伝えることに努めました。

日系の老人ホームに派遣された上瀬さん（左）と笑顔の入所者

スザノ・イッペランジャホームのスタッフと上瀬さん（右から二人目）

県出身の入所者，宇品出身の野島さん（80＝右）と旧可部町出身の三上さん（91）。
野島さんは，被爆は免れたが，原爆投下当時のことははっきり覚えていると語ってくれた。

展示担当
　１～５：広島県立文書館
　６　　：広島県国際課
　７　　：独立行政法人国際協力機構
解説パネル制作：
　公益財団法人海外日系人協会